

「国家総合職の魅力」 Wセミナー講師 佐々木雄一

「キャリア」って何？

① 国家Ⅰ種（総合職）試験合格者という資格で、②中央省庁（本省）のいずれかに採用されて、③幹部候補生コースを歩む人のこと。（パンフ p.17 参照）

中央省庁とは、内閣府、総務省、外務省、法務省、財務省、文部科学省、厚生労働省…などの各省庁。霞が関にあるのが「本府・本省」…企業の本社に当たる。キャリア組は「本社」採用（例外あり）。一方で各省庁は、民間でいえば支店にあたる出先機関（地方支分部局）も全国に持っている。

(例) 厚生労働省（本省）——東京労働局——新宿労働基準監督署
 ハローワーク（公共職業安定所）新宿

キャリアのイメージ

「大きな仕事ができる」

人・物・金のすべてで範囲・規模が大きい→日本全国あるいは世界を相手にする。民間企業のスケールを超える仕事。マーケットメカニズムに頼れない。バランス感覚が大事（予算配分、法規制）

「出世が早い（本省幹部候補）」

若いうちから重い仕事を任され、同時に肩書きもついてくる。周囲がそれなりの立ち回りを期待する。4年目ぐらいで係長、7～8年目で課長補佐。

「異動が多い」

1～2年周期、他省庁出向も含め毎日が勉強。

「激務」

とにかく仕事は多く、一方で人手が足りない。

それでもなぜキャリアになるのか？仕事の魅力以外では…

待遇面 民間大企業にはやや劣る。が、安定していて福利厚生も充実。

海外留学 同期が 20～30 人という時点で、民間企業での社内留学とは比較にならないチャンスが多さ。その後は、在外公館勤務や国際機関勤務の仕事にかかわる機会もある。

女性にとっての働きやすさ 女性キャリアは増加。産休育休制度は整い、霞が関保育所などの措置も。
※ただ、基本的にはストイックでないと務まらない仕事であることはお忘れなきよう。

ノンキャリアとの違い

ノンキャリアは定型的・補助的な仕事をする。お金関係→給与計算、予算の執行（入札、契約、支払いなど）や物品管理。そのほか既存法令の執行（検査、業界監督）など。比較的ルーチンワーク・反復的業務。

これに対しキャリアは広い視野を持って新しいことを作り、前例を変えていくようなスタンスの仕事。法律を作る、変える、新しい事業を企画する、予算をとる、事業を変える、止める、など。

※ノンキャリアのキャリアへの内部登用もないわけではないが道はかなり狭い。

国家総合職試験とはどんなものか（現時点での情報に基づく。日付は 22 年度実施ベース） p.18 参照

1 次試験（基礎能力・専門分野の択一） 5/2 →発表 5/14

→ 2 次試験（専門論文＋政策論文または政策課題討議 5/23＋人物試験 5/27～6/11） →最終発表 6/22

筆記試験の概要

基礎能力試験は、従来教養試験と呼ばれていたもの。今回、試験区分に「教養」が新設されたため改称されたと思われる。地方公務員試験等には今後も教養試験があるので、基礎能力試験＝地方でいう教養試験と整理しておいた方がわかりやすい。

基礎能力試験科目（薄く広い【知識】と、出たところ勝負の情報処理能力【知能】を問う）

→内容は、高卒レベルの国数理社英＋知能テスト＋時事の一般常識。知能は必須、知識は選択回答制。

専門科目（大学の講義で学ぶ専門分野の知識→法律学・経済学・行政学・政治学・国際関係…）

→試験職種ごとに出题科目が異なる。

一般的には、憲法、民法、行政法、経済学、数的処理が 5 大科目といわれる。

人物試験：人事院面接は侮ってはいけませんが、しっかり準備すればそれほど厳しくもない。ここまで突破すると、国家総合職試験自体は最終合格となる。

試験後の出来事です…官庁訪問の重要性

最終合格というのはキャリアとして採用される候補者の資格を得たに過ぎない。実際にキャリアとして採用されて働くためには、その後行われる各省庁への官庁訪問でどこかの省庁から内定をもらわなければならない。官庁訪問は 2 週間ほどの間に、意中の官庁を何度も連続訪問し、一日に数人、合計十数人の人と面談し、自分の内面を見られる。先方に、気概・人物的魅力などを見出だされ、採用してもらう必要がある。

最終合格者のうち採用者数は半分以下になっている。実は公務員試験は予選にすぎないとさえいえる。官庁訪問に勝ち抜くためには、いろんな経験をして内面を磨かないといけない。

（パンフ P.17 2010 年 4 月採用状況 法律職採用 189／490、経済職 101／224、行政職 13／41）

W セミナーで提供する講座

筆記試験勉強のプロセスは、インプット（知識の理解）→アウトプット（択一で正解にたどり着く、論文答案を書けるようになる）が基本。これに、人物試験と官庁訪問対策を合わせ、1 年間で合格できる力がつくようにパッケージ化（1 年コース）。

このほか W セミナーの特徴

- ・試験全科目を LIVE 開講しているのは W セミナーのみ。
- ・2 回目の講義まで無料体験受講可能
- ・担任制度をとっており、講座開講校舎では受講相談・勉強の仕方などを担任講師に相談可能
- ・充実した官庁訪問対策
- ・本科生の場合受講料は、教材費、模試受験料、添削料など込みなので、追加の費用負担なし

4つの通学講座の受講スタイルの違い

	受講スタイル	生講義への出席	DVD フォローの利用	音声DL フォロー	Web フォロー
①	教室講座	◎(※1)	○(有料)	○(標準装備)	○(有料)
②	DVD 講座	—	◎(※2)	○(標準装備)	○(有料)
③	教室+DVD 講座 〔VIP コース〕	◎(※1)	◎(※2)	○(標準装備)	○(有料)
④	教室+DVD 通信講座	◎(※1)	—	○(標準装備)	○(有料)

※1:校舎間振替受講・重複受講も可能です。

※2:同一講義を2回以上受講する場合、2回目以降は有料です。校舎間振替受講も可能です。

価格: 教室講座=DVD 講座 < 教室+DVD 講座(VIP) < 教室+DVD 通信講座

(参考) 職種選び: 法律、経済、政治・国際どれが有利か?

まず考えるべきは、学部での勉強の「貯金」をいかせるかどうかだが、①そもそもみんなまじめに大学で勉強してますか? (笑)、②そもそも大学の講義と公務員試験勉強は別物 (特に法律系)、③全く関係ない学問を専攻していても受かる人はいるし、そのために試験スクールはある。そこで、ここはゼロベースで有利不利を考えてみると、

	法律職	経済職	政治・国際職
試験内容 や勉強量	法理論 (学説・概念) と判例 (事件・事例の結論) をひたすら暗記。知識を完璧に覚えていないと解けない問題が多数。どこまで覚えれば (上位で) 受かるかの線引きが微妙で、暗記地獄に陥る部分もある。経済学は最低限のことを抑えれば合格できる。	暗記モノと、理論 (計算式) を覚えての応用問題の要素がある。暗記量は他の職種に比べて断トツに少ないゆえ、知識を完璧に覚えていなくても正解にたどり着けることが少なくない。ここが法律職と決定的な違い。数学にアレルギーのない人にオススメである。	暗記中心だが、学説等にしても読み物として理解できる面もあり、幅広い分野に興味を持って勉強に取り組める人には比較的とっつきやすい。知識を完全に覚えていなくても正解できるチャンスはあるが、選択肢の取捨の見分けは地上国Ⅱよりかなり難しい。
向く人	法学部等で法律の基本を理解した人、論理学に強い理系出身者、経済学が苦手な人	経済学部等で経済学の基本を理解した人、社会科学のバックグラウンドを持たない理系出身者	文学部など法・経以外の文系出身者、法律・経済学を大量に勉強するのが嫌いな人
向かない人	法律系科目や極度の暗記にアレルギーのある人	数学 (特に微分積分) にアレルギーのある人	勉強には自信があるのに、いまちょっと楽をすることで後に負い目を感じたくない人
受験生活	ノウハウが確立。受験仲間も多い。	ノウハウもあり、受験仲間もそこそこいる。	国Ⅰ本命の受験仲間が少なく周囲は地上国Ⅱの模試状態。
採用上の 有利不利・入省後	「法科万能」の流れをくむ本流。旧経企庁系のエコノミストを目指したい人を除けばどこでも官庁訪問 (採用) 上不利になることはない。	法律職と比べて不利ということはない。入省後も、経済職で受かった人も当然のように法律を作る仕事に関わる。	倍率の高さ、採用内定率の低さは国Ⅰ本命で実際に官庁訪問している人が少ないため。採用上、行政職は低く見られやすい面もあるというが、あくまで噂レベル。
地上国Ⅱ 併願	科目にずれがあるが、憲・民・行・経の貯金が大きいのので実はあまり問題はない。行政系科目は暗記モノが多いので対応可能。		最も科目が重なり有利といわれるが、上記の短所も。